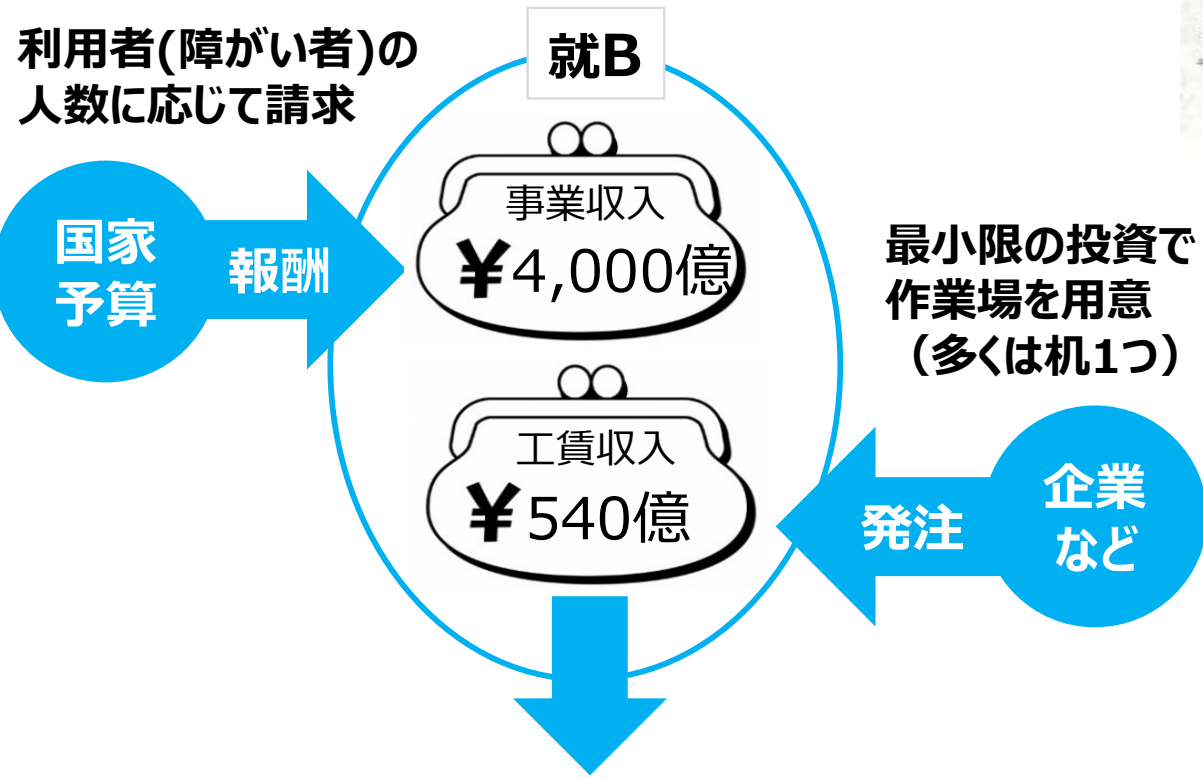


AlonAlonの進める障がい者雇用について



NPO法人AlonAlon
理事長 那部智史

■ 障がい者のための福祉か？



約30万人の知的障がい者の
 ①月額工賃は15,776円*
 ②就労率は1.5%* *2020(令和2)年
 障がい者を既得権益化

経済教室

2019年8月28日
日本経済新聞掲載

私見
卓見

重度障害者の就労手助けを

AlonAlon理事長 那部 智史

就労継続支援B型事業所(就B)という福祉施設がある。主に企業に就職することが難しいとされた障害者が働く作業所だ。ここで働く障害者には工賃が払われるものの、最低賃金は守られず、月額1万5千円(全国平均)にとどまる。障害者年金と合算しても生活保護の受給額にとどかない。就Bの運営を改善し、障害者が経済的自立を果たすよう後押しすること。それを就B事業者の目標とすべきではないだろうか。

就Bは全国に1万1千あまりあり、約30万人の障害者が年間合計540億円の工賃を受け取っている。一方、就Bの事業者には国から年間3千億〜4千億円の給付金が払われる。事業者への報酬は利用者数に応じて決まるため、利用者を抱え込もうとするケースもある。この結果、企業への就労率も1%にとどまっている。我々も就Bを運営する。母親同伴で体験作業に来るある女性はいつも通う別の施設では一日中1つの部屋に閉じ込められているのだという。「何もできない」「手がつけられない」といった理由で隔離されているのだろう。経済合理性を優先し、彼女の個人としての存在を消すこととしているに等しい。それでも事業者は国からの給付金を受け取れるのだ。

たとえ重度の知的障害者であっても、経済的自立は可能である。私たちの団体ではコチョコウランを栽培し、慶弔花として企業に販売することで障害者に最高10万円の工賃を支給している。今年新たにふたりが企業への就職を決めた。これからは「コチョコウランの栽培を通して新たな労働力を創る」ことを目標にしていきたい。

障害者には100人いれば、100通りの支援が必要だ。知的障害者も特別支援学校から直接企業に就職できる人から、就労をあらかじめさるを得ない人まで事情は様々。中度・重度の障害者だからといって「就労できない」と決めつけるのは間違いだ。就Bの作業内容をより専門化すれば、新たな労働力として育つ可能性は高まる。

障害者も「タックスイーター」から「タックスペイヤー」になりたいと夢を語っている。働く意欲のある障害者に働く場を提供する。それこそ国民あげて取り組むべき課題ではないだろうか。

■雇用された障がい者は労働しているのか？

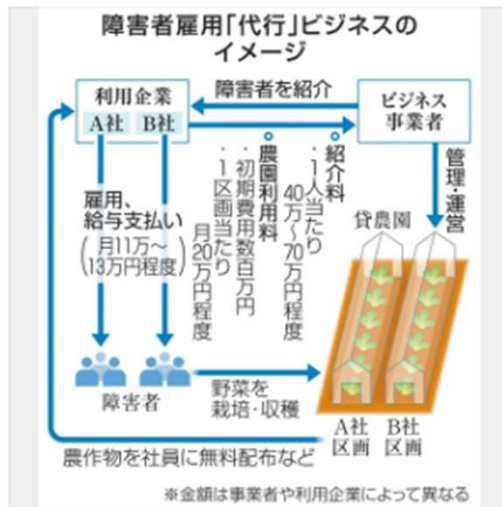
障害者雇用「代行」急増 法定率目的、800社利用

1/9(月) 21:00 配信

111



< 2 / 2 >



障害者雇用「代行」ビジネスのイメージ

法律で義務付けられた障害者雇用を巡り、企業に貸農園などの働く場を提供し、就労を希望する障害者も紹介して雇用を事実上代行するビジネスが急増していることが9日、厚生労働省の調査や共同通信の取材で分かった。十数事業者が各地の計85カ所で事業を展開。利用企業は全国で約800社、働く障害者は約5千人に上る。

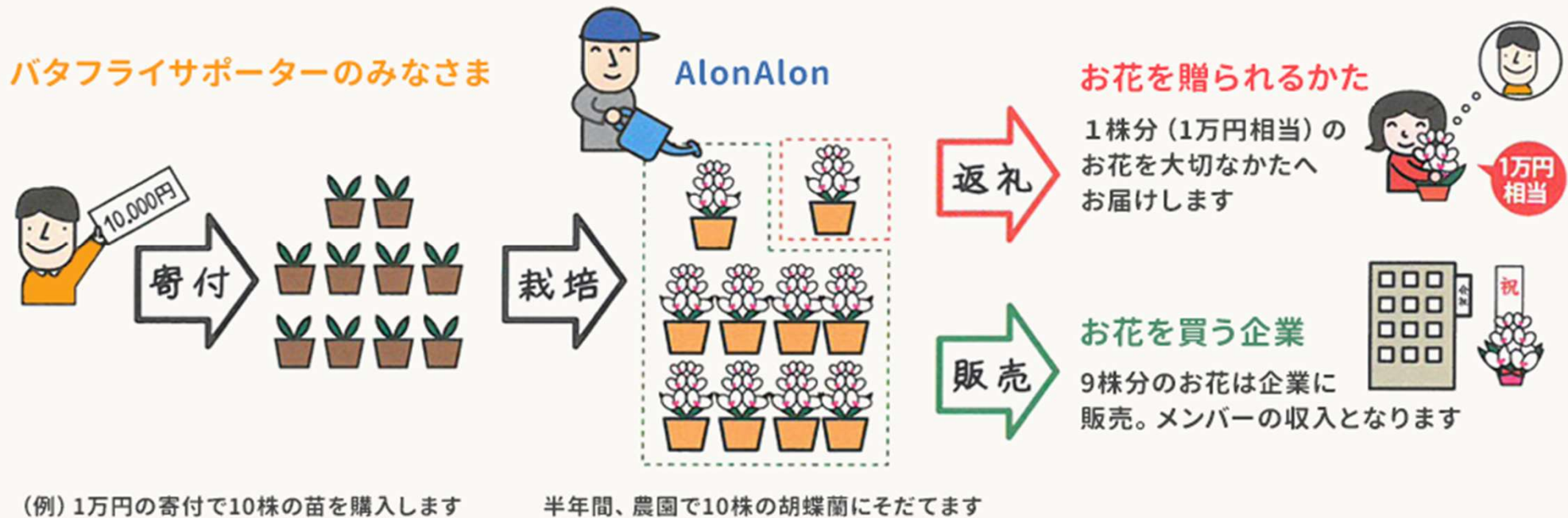
大半の企業の本業は農業とは無関係で、障害者を雇うために農作物の栽培を開始。作物は社員に無料で配布するケースが多い。違法ではないが「障害者の法定雇用率を形式上満たすため、雇用や労働とは言えない」との指摘が相

次ぎ、国会も問題視。厚労省は対応策を打ち出す方針だ。

■ AlonAlon 7つのストーリー（1）

かかわるみんなが幸せになる支援

バタフライサポーター制度にご賛同いただけるみなさまから胡蝶蘭の苗の購入代金を寄付としていただきます。AlonAlonの入所者がその苗を立派な胡蝶蘭に育てて一般企業向けに販売し、その代金が入所者の収入になります。バタフライサポーターとして寄付いただいたみなさまにも、寄付金額と同等のお花を全国どこへでもお届けします。



■ AlonAlon 7つのストーリー (2)

サポーターで広がる輪の拡大
～「個人」から「企業」へ

全国約3,000名のバタフライサポーターの14%がAlonAlonの
カタログを勤めている会社や取引先、友人知人に配布
「ストーリーのある花を贈るなら、AlonAlonで」



半年で100社、年間200社の新規取引先増に
(2022年8月現在でお取引先数3253社)



胡蝶蘭販売が拡大し月額工賃が5万円～10万円へ



The image shows a 'Flower Gift Guide' catalog for AlonAlon. It features two types of orchid arrangements: 'Standard Type' and 'Rare Type'. Each type has two options with prices listed. Below the catalog is an order form with fields for name, address, phone number, and delivery date. The form also includes checkboxes for delivery options and a section for special instructions.

■ AlonAlon 7つのストーリー（3）

新規取引先100社のうち1社が大企業～「もうお花を買わないで下さい」

胡蝶蘭栽培を通じて新たな労働力を創る



■ AlonAlon 7つのストーリー（4）

「AlonAlonオーキッドガーデン内の貸農園では栽培数が足りない」

➤ 障がい者が働く胡蝶蘭温室の開設支援

胡蝶蘭温室の設計建設から栽培支援まで全般をお手伝い

2020年：帝人株式会社（千葉県に温室建築）→東京物流センターから関東圏へ出荷

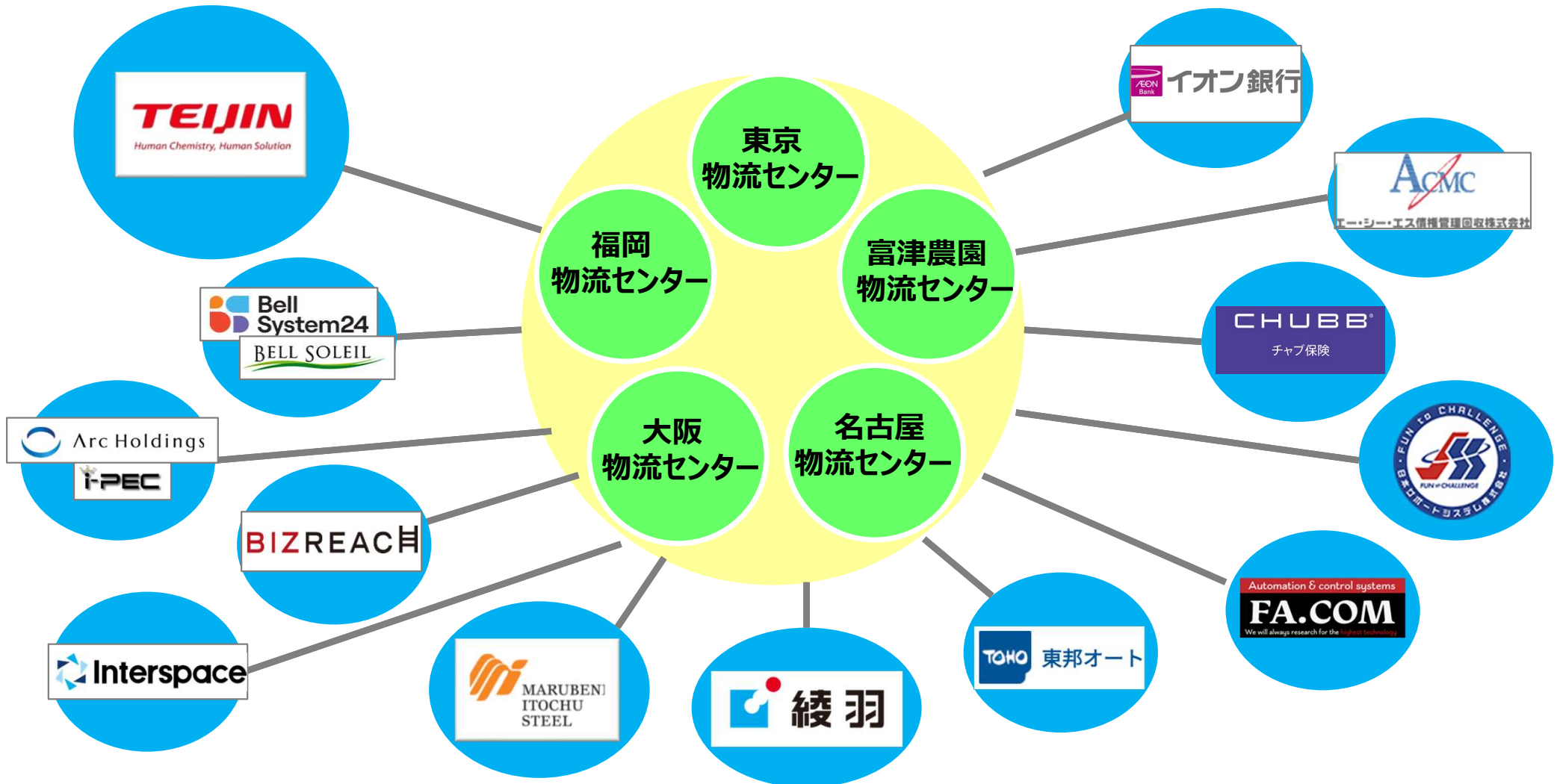
2022年：綾羽株式会社（滋賀県に温室建築）→大阪物流センターから関西圏へ出荷

2023年：福岡県北九州市に温室建設予定→福岡物流センターから九州へ出荷



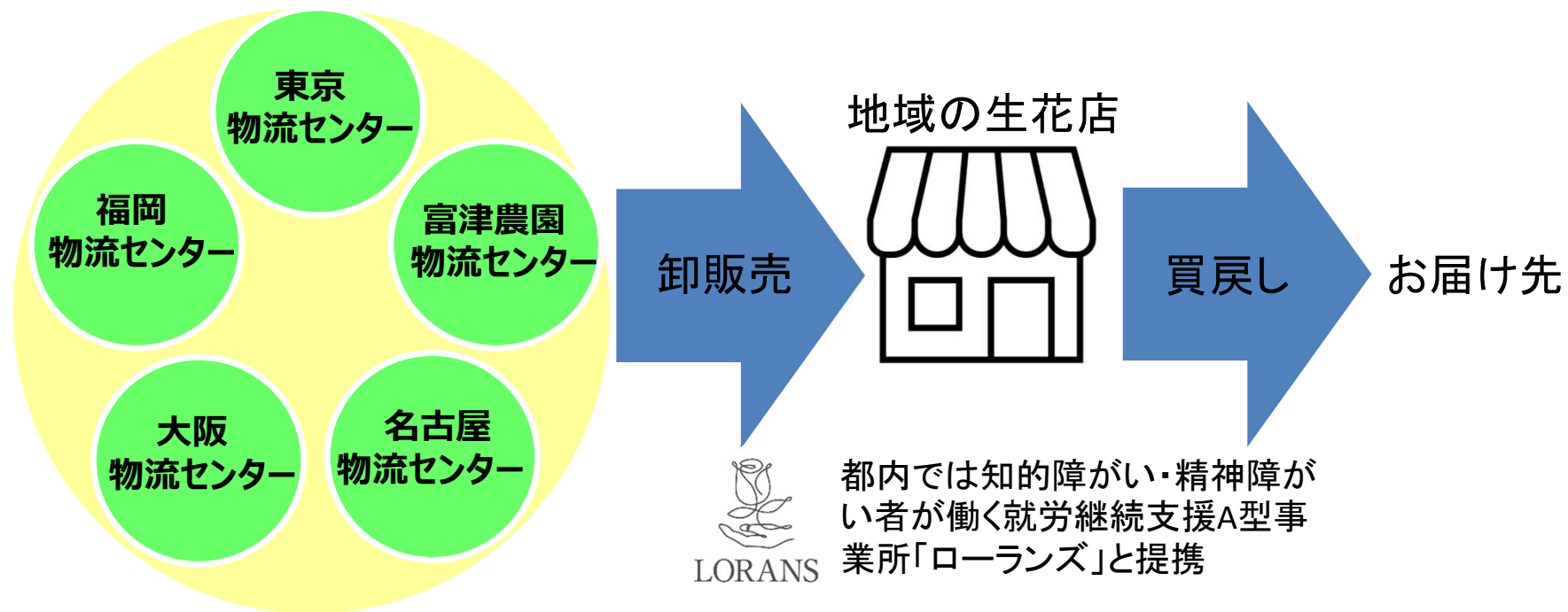
■ AlonAlon 7つのストーリー（5）

障がい者の栽培する胡蝶蘭（現在13社）のビジネスプラットフォームの提供



■ AlonAlon 7つのストーリー（6）

各地の生花店に卸販売し、注文に応じてお届けに最適な生花店の花を買戻しお届け



販売価格の 1 / 4 で生花店に卸→販売価格の 1 / 2 で生花店から買戻し

■ AlonAlon 7つのストーリー (7)

2022年11月26日
日本農業新聞

胡蝶蘭以外の作物で障がい者雇用を増やす

➤ マンゴー栽培への挑戦

2021年4月 産業用ロボットシステムインテグレータのJSSとLLP「クッテグア」を設立
アグリテック[アグリカルチャー(農業)×テクノロジー]を活用した農福連携システムの研究を開始



産業ロボ業界と共同研究

「クジョウラン栽培のNPO」
障害者施設と産業用ロボット業界がタッグを組み、農福連携の現場にスマート農業を取り入れる研究開発が始まっている。病害虫の防除や、収穫時期の見極めなどにロボット技術を取り入れることを想定。障害者を技術で補うことで、障害者の活躍の場を広げ、雇用の拡大を目指す。(長野 郁雄)

障害者施設を運営しクジョウランを栽培する千葉県富津市のNPO法人アロンアロンと、産業用ロボットの導入を支援する茨城県土浦市の日本サポートシステム(JSS)は、工場のスマート化に関わる企業でつくる共同事業体チームクロスFAの3者が挑む。JSSの天野眞也社長がコ

アロンアロンで試験栽培しているマンゴー。栽培に携わる障害者と話す那部理事長(千葉県富津市)

クジョウランのハウスを視察したことが連携のきっかけ

福連携に生かそうと考え、有限責任事業組合クッテグアを2021年に立ち上げた。アロンアロンのハウスを使



農福スマート化育む

防除など想定 障害者雇用拡大めざす

いマンゴー栽培で研究、開発する。同法人の那部智史理事長は「収穫のような楽しい作業は残し、病害虫防除など大変で難しい作業をロボット化したい」と期待。天野社長も「技術的には可能」と意欲を示す。

具体的には病害虫を発見、駆除するロボットや収穫時期を見極めるVR(仮想現実)眼鏡などを想定する。現在は、冬場の暖房に遠赤外線パネルを使った環境制御装置の試験を行っている。

栽培はアロンアロンの障害者施設で仕事を覚えた障害者がJSSに就職。再び同施設に出勤する形で担う。

天野社長は「人を助けるのが技術。テクノロジーによってハンディキャップを埋めていく」と強調。アロンアロンの那部理事長は「農福連携に技術が加わることで、障害者が楽しく生き生きと働ける場が増えれば、連携や障害者雇も広がる」と期待する。